

ヘブライ大学での滞在研究を終えて

理学系研究科 物理学専攻 博士課程2年 川名 好史朗

私は2019年9月20日から12月27日の間、イスラエルはエルサレムのヘブライ大学ラカー物理学研究所に滞在し、ホスト研究者である Re'em Sari 教授との共同研究を行った。研究内容は、白色矮星がブラックホールによって潮汐破壊され熱核爆発を起こした場合に、その爆発が白色矮星の残骸の運動に及ぼす影響についてであり、派遣終了後も Sari 教授と連絡を取りながら本研究を継続している。

日本国内には潮汐破壊現象の研究者は非常に少なく、自身の研究について深く議論できる機会が限られていたが、ヘブライ大学滞在中には Sari 教授を始め、在籍する多くの潮汐破壊現象の研究者らと頻りに議論を行うことができた。また、ヘブライ大学を始めイスラエル国内の四つの大学・研究所で自身の研究についてセミナー発表を行い、研究の宣伝及び議論をすることができた。

本派遣に際し、共同研究のみならず現地での生活もご配慮くださった Sari 教授、松本達也氏を始めとするヘブライ大学ラカー物理学研究所の皆様、派遣中も定期的に相談・議論してくださった吉田直紀教授、また経済的にサポートして頂いた日本学術振興会 若手研究者海外挑戦プログラムに深く感謝いたします。



キャンパス内にはヘブライ大学と関係が深いアインシュタインの像やポスターが多数ある